



自分らしく 三密だけじゃありません！避難所づくりでの大切な視点

9月1日は『防災の日』です。

コロナ禍での避難所づくり。`三密`にならないよう配慮が必要ですが、もう1つ、男女共同参画の視点も大切です。

少しでもストレスなく、避難所での生活ができる方法を考えてみましょう。

避難所では、プライバシーや衛生面、女性や子どもに対する性被害などのさまざまな問題がおこる可能性があります。
避難所の運営は男女双方の視点を反映させるために、男女が共に参画するといいですね。

東日本大震災時の避難者から こんな声がありました

夜に、屋外の仮設トイレへ行くのが怖いので、水分を取るのを我慢しました。



女性専用の物干し場がなく、下着を干すと盗まれるので、生乾きのまま着替えました。

赤ちゃんに授乳をするための場所がなく、壁に向かって授乳をしました。



ようこそ手話の世界へ

福祉課（内線217）



かんたん手話講座 手話で話そう！

土岐市に



親指・人差指・中指をこすり合わせる

住んでいます



握った拳を下げる

自分を指差す

ろう者が結婚して子どもが生まれ、子どもたちが聴者（耳が聴こえる）である場合は「コーダファミリー」、子どもたちもろう者である場合は「デフファミリー」と言います。
特に「コーダファミリー」の場合、地域の学校に通う子どもは親として学校行事に参加する時、周りの方々の協力があると安心して参加することができます。

ろう者が生活で

困ること【教育】

最近では学校からの連絡手段として緊急連絡メールが使われるようになり助かっていますが、以前は電話連絡網が連絡手段だったため、前の連絡網の方が内容を知らせに来てくれることもあったようです。
ろう者の多くは、授業参観・家庭訪問・進学説明会など、具体的な内容を把握するために手話通訳を依頼しています。
が、地域コミュニティの情報（子どもの様子・地域のお知らせ）を早く正確に知ることができたら、もっと安心して暮らすことができるでしょう。